

SASHA™  
W/P



WILSON®  
AUDIO

WILSON<sup>®</sup>  
AUDIO



# Introduction



## 【 継承、そして、その先の未来へ 】

1980年代初頭、Wilson Audio の歴史に記念すべき一頁を刻む弩級のスピーカーシステム”WAMM”を創り上げたディヴィット・ウィルソンは、それから数年の後、当時彼が携わっていたレコード制作の現場で精度の高いモニターリングを行なう必要性から自身のための小型スピーカー”WATT”を完成させました。さらにその後、低域補強のための”Puppy”を加え WATT/Puppy としてシステムを発展させ、世界のオーディオファイルから絶賛とともに圧倒的な支持を受けます。Wilson Audio のハイエンド・スピーカーメーカーとしてのスタートがここから始まったのです。WATT/Puppy のシステムは、時代の進化に伴って、その後幾多の変遷を遂げ System8 に至ります。しかし、それは、基本的には WATT 自身が独立し得るという姿を全く変えることのないアップデートの変遷でした。その間、Wilson Audio は、もう一方で”WAMM”から継承されたマルチキャビネット構成による X-1 / Grand SLAMM、MAXX、Alexandria X-2 など、コンプリートシステムの深化の過程を辿ります。

Sasha W/P は、姿かたちこそ一見すると WATT/Puppy の次期バージョンかとも思われるかも知れませんが、実はそれは、Alexandria X-2、MAXX 3 という現代の Wilson Audio のフラッグシップ機に傾注されたノウハウを継承し生まれた新たなシステムなのです。中高域各ユニットには MAXX Series 3 と同一のものを、ウーファーには磁力強化した新モーター/マグネットアッセンブリーを投入。中高域モジュール、バス・キャビネットのいずれも System8 を上回る容積を持たせ、ローエンドの 2Hz の拡張によるアッパー・バス帯域のクリアネスとスケールアップを達成。また、クロスオーバー回路は中高域モジュールから分離しバス・キャビネットに収容。中高域モジュールの新プレーシング構造、サイドウォール・コンストラクション、新バツフル材は、さらなる高剛性化と低共振化をもたらし極めて高い S/N 感とリアリティーを実現しています。キャビネット材、クロスオーバー、ドライバーのすべてのデザインにおけるコンプリートシステムの、未来に向かう新たな姿がここに生まれました。



WILSON  
AUDIO



SASHA™  
W/P

## The Drivers



### 【トウィーター】

ミッドレンジのみならず Sasha W/P には MAXX Series3 と同一のトウィーターが搭載されています。強力なマグネットによる磁気回路で低歪率でスムーズな広帯域再生を可能としたチタニウム逆ドーム型トウィーターです。また、ハウジング内のダンピング材の投入により、僅かなダイヤフラム後面波をも徹底して吸収し高 S/N を実現しています。

### 【ミッドレンジ】

Sasha W/P には、MAXX Series3 に搭載されたものと同一の 7 インチ・ミッドレンジ・ドライバーが採用されています。それは、Alexandria 2 で中心的役割の一翼を担う要素として新開発されたドライバー(※)の磁気アッセンブリーにわずかなシンプル化を図った新バージョンです。動的質量が極めて軽く強靭なファイバー混合コーンと強力な磁気回路によって俊敏で低歪率、高 S/N を達成しています。

(※)Alexandria 2 におけるドライバーの開発過程では、世界で最も素晴らしいホールのひとつであるウィーン・ムジークフェラインの響きが多大なインスピレーションをもたらし設計推進の原動力となりました。ステージからのダイレクト音と一次反射、副次反射音との絶妙なコンビネーションが生み出すこの素晴らしい音のリアリズムは Alexandria 2 の開発に大いに刺激を与え、ミリ秒オーダーの微細な音の重なりと広がり再現に関わるドライバーの俊敏性と歪みを徹底解析し、極めて高性能な新たなドライバーユニットが開発されたのです。

### 【ウーファー】

Sasha W/P のバス・キャビネットは以前の Puppy エンクロージャの内容積を上回ります。そのため、ウーファーにも新たなスペックが求められました。二基の 8 インチウーファーには、新たにさらに強力なマグネットが搭載され、モーターアッセンブリーの強化も施されました。それによって、ウーファーコーンのモーションスピードは飛躍的に向上し、低域のダイナミクスを大きく改善しています。





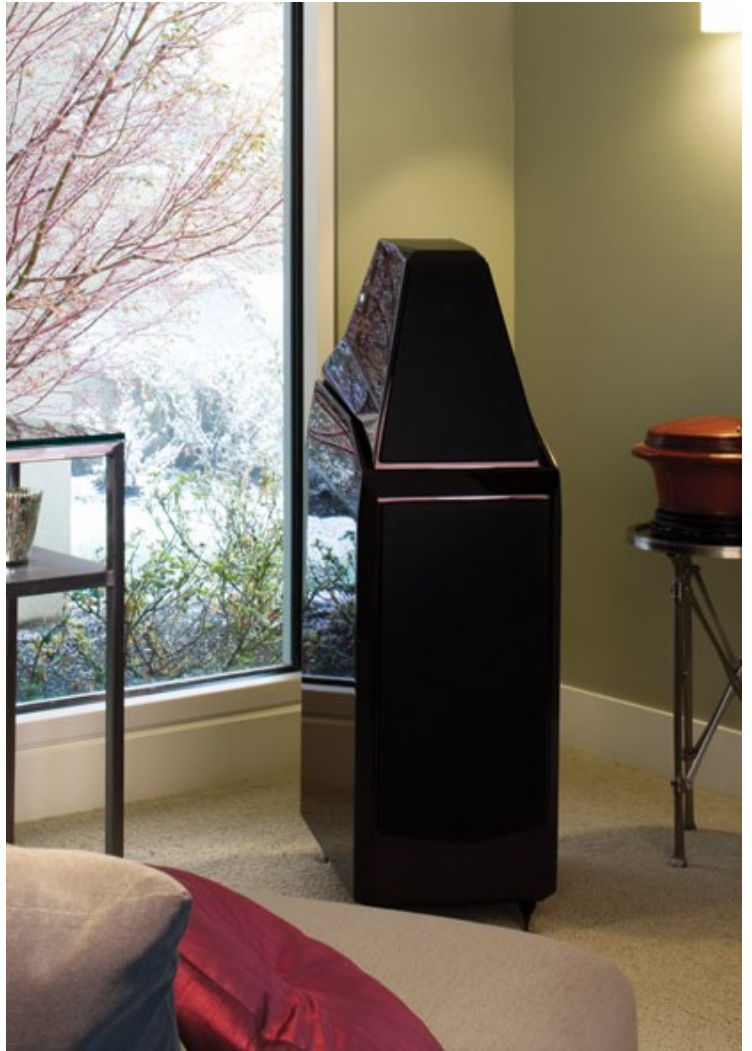
## The Cabinet History of Wilson Materials Research

### 【ウィルソン・キャビネットの歴史】

ディヴィット・ウィルソンは、初の技術の集大成となる”WAMM” スピーカーシステムを 1981 年に組立て始めました。そのキャビネットはバルト海地域の樺(カバ)材を素材とした合板と金属のハイブリッドによるものでした。それから、1985 年に初代 WATT を完成させるまでの間、彼は木材や MDF、あるいはアルミニウムなどよりもっと大きな剛性とダンピングを兼ね備えた材料を探求し、ミネラル(鉱物)混合のアクリル系素材に辿り着きます。WATT に採用されたそのキャビネットは、低共振性とカラーリングのない見事な音の再現性で絶賛を浴びたのです。

次の挑戦は、鋼鉄のような強靱な硬度とずば抜けたダンピング性能を併せ持つバス・エンクロージャへの素材でした。1992 年開発の X-1 Grand SLAMM のために研究されたセルロースとフェノールの混成物、X 材がそれで、他の追随を許さない圧倒的な性能を発揮させます。そして、それは、ウィルソン・スピーカーのミッドレンジ・ハウジングを除く(1,000Hz の共振周波数であったため非ミッドレンジ用として)あらゆる部分に採用される極めて有用な素材となったのです。

鋼鉄のような強靱な硬度とずば抜けたダンピング性能を併せ持つ X 材の完成は、ミッドレンジ・キャビネットに対してもそれに見合う特性を求める新たな挑戦を促しました。それまでのミネラル(鉱物)混合のアクリル系素材から、木材パーティクルとフェノール樹脂の積層素材に換えた M 材がそれです。X 材にマッチしながら、ミッドレンジ・ドライバースタイルとの理想的なカップリングを実現する最適な硬度を得ています。M 材の WATT キャビネットにおける初導入は 2002 年の WATT/Puppy System7。その後 M 材はさらに改良され、木材パーティクルとエポキシ樹脂の積層素材に進化した第四世代 M 材(M4)となり、MAXX Series3 とアレキサンドリア Series2 で使用されることとなります。M 材の名は最初に MAXX Series1 で採用されたことに由来しています。



the WAMM, 1981

prototype WATT, 1985

X-1 grandSLAMM 1992

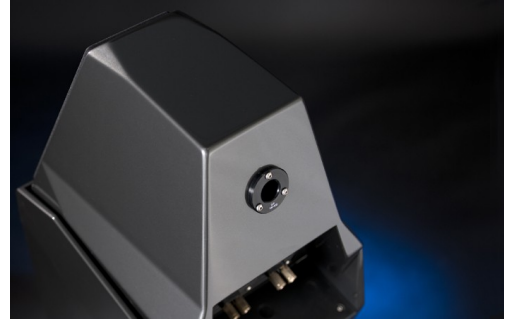
MAXX Series 1, 1997

WATT/puppy 7, 2002

## The Cabinet

### [ Sasha W/P のミッドレンジ・キャビネット ]

Sasha W/P では、ウィルソンのこうした優れた素材の研究開発へのあくなき探求から生まれた最も先進の成果を投入しています。S 材と呼ぶこの新素材は、天然ファイバーとフェノール樹脂の混成積層構造によるもので、Sasha W/P のミッドレンジ・バッフルに採用されています。再生音により深い表現力をもたらすその低カラーレーション能力は、ミッドレンジ・キャビネットの新基準をもたらすことでしょう。また、内部構造にも手が加えられています。躯体強化のためのクロスブレイシングが仕切る内部チェンバー容積を非均等とするウィルソン独自の構造技術をさらに改良し、WATT よりもさらに低共振化させています。また、サイドパネルには新 NC マシンで精密に切削加工した分厚い第三世代 X 材を使用。バッフルの”S 材”との相乗効果がさらなる低ノイズ化に貢献しています。



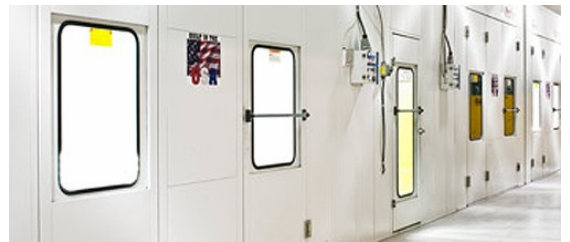
### [ Sasha W/P のバス・キャビネット ]

分厚い第三世代 X 材を精密切削加工した Sasha W/P のバス・キャビネットは、その内容積を Puppy8 より一回りアップさせています。結果、ボトムエンドの再生帯域は 2Hz 延伸し、きめ細かな諧調表現を伴ったダイナミック感溢れる豊かな低域再現力を獲得しています。

## The WilsonGloss Finish

### [ 入念な塗装 - ウィルソングロス・フィニッシュ ]

Wilson Audio スピーカーのエンクロージャは、すべて、「ウィルソン・グロスペイント」という世界有数の車に施される塗装と同等以上の複雑な工程による高品質な塗装が施されています。「ウィルソン・グロスペイント」は、OSHA (アメリカ労働安全衛生庁) の厳格な規格に基づくクリーンルームのペイントブースで温度、湿度、気圧が徹底管理され入念に行なわれます。



塗料技術者は、最初に、白い粘着性のゲル・コート(ボートなどで海水の進入を防ぐために使われるものと同等の素材)をあらゆる露出している表面に吹き付けます。それは、これがキャビネット外皮のもう一層のダンピング材として機能するばかりか、ウィルソン・グロスペイントを滑らかに仕上げる下地となります。



ゲル・コートは 3 日間かけて落ち着かせます。そのあと、エンクロージャはペイントブースに移され下塗りが三回繰り返されます。乾燥後さらに八層の「ウィルソン・グロスペイント」が施されます。七日間かけたこの塗装工程では、ルーペによる厳密なチェックと微細な補修も並行して行なわれます。塗装工程の最後は丁寧なバフ仕上げ。艶やかな光沢をもつ「ウィルソン・グロスペイント」の完成です。



「ウィルソン・グロスペイント」には、Desert Silver, Mercedes Silver, Dark Titanium, Diamond Black の「スタンダードカラー」

4 色と、12 色の「Wilson スペシャルカラー」の全 16 色のバリエーションをご用意されています。また、さらに、カスタマーご指定のお好みの色の塗装による「カスタムカラー」のご注文も可能としています。





### Sasha W/P [ Specifications ]

ウーファー: 2 x 8 インチ (20.32 cm) ポリプロピレンコーン  
 ミッドレンジ: 7 インチ (17.78 cm) セルローズ/ペーパー・コンポジットコーン  
 トゥイーター: 1 インチ (2.54 cm) チタニウム逆ドーム  
 感度: 91 dB @ 1W/1m @ 1 kHz  
 公称インピーダンス: 4Ω (最低: 1.8Ω @ 92 Hz)  
 周波数特性: +/- 3 dB 20 Hz - 22 kHz Room Average Response  
 外形寸法: 360W x 1120H x 540D (mm)  
 重量: 89.5kg (1 台)



●外装フィニッシュ/カラー: ウィルソン・グロスペイント/Desert Silver, Mercedes Silver, Dark Titanium, Diamond Black の「スタンダードカラー」4色、「Wilson スペシャルカラー」12色のほか、カスタムカラーオーダーも可。

AXISS corporation

輸入発売元: アクシス株式会社 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-34-27  
 www.axiss.co.jp / TEL:03-5410-0071 / E-Mail: post@axiss.co.jp